

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792510034		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホーム西会津しょうぶ苑 おとめゆり		
所在地	福島県耶麻郡西会津町野沢字下小屋上乙3229番1		
自己評価作成日	令和5年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和5年3月20日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域柄を生かし、地域や関係機関と連携できるような密接な関係性を保ち、利用者がこれまで生活してきた地域で生活を続けられるよう、積極的に取り組んでいる。  
また、職員が間に入り、利用者様同士のコミュニケーションをサポートすることで、新しい利用者様もすぐに打ち解けて頂いている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの役割を理解し、事業所で夏祭りを開催するときは地域にチラシを配り参加の声掛けや、町内の祭りときはおみこしが事業所敷地まで入って貰い、利用者で交流して貰っている。  
入居している方が、尊厳を守られ地域の中で安心して暮らせるようにすることを基本にし、その人の身近な人や関係機関と相談し、その人にとって何が最善であるかを考えた取り組みをしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○事業所の理念を掲げ、職員や来客も閲覧できるように玄関に掲示し、職員として常に意識している。 ○職員がいつでも確認できるように職場の業務実績ファイルにつづっている。	利用者・家族からお礼の言葉を貰った時、理念が活かされていると感じている。コロナ禍により行事の縮小や外出の自粛があったが、利用者が張合いのある生活を送れるよう環境作りやストレス軽減のため、行事を計画し、職員も共に楽しめる時間を作るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○コロナの感染状況を見ながら、感染対策を行いながら、出来る限り町の会議や研修会に参加している。 ○3年に一度開催される町の福祉大会に実行委員として参加し、大会の中で事業所を紹介した。	年4回、事業所の広報紙を回覧板で回して貰っている。 町内の福祉事業所、小中学校、地域等参加され、福祉大会が開催され、事業所も実行委員として参加し、地域住民との交流の機会を設けている。町内のふるさとまつりが開催され、利用者の作品を出展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○サービス調整会議や、運営推進会議で事業所の利用状況や取り組みを報告している。 ○定期的に広報紙を発行し、関係機関や地域に配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○事業所の利用状況や行事の取り組み、介護事故等について報告をしている。 ○コロナ感染状況について報告し、関係機関の感染対策や面会方法、ワクチン接種について意見交換をしている。	コロナ感染対策について町や、他事業所の取り組みについて意見を貰ったり、コロナワクチン接種方法について情報交換をしている。会議を通して、事業所としての課題や今後の取り組みについて相談をし、問題解決に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	○サービス調整会議に参加し、町の関係機関と情報交換をし、共有化を図っている。 ○入所判定会で町役場の担当職員と連携を取り、入所者への対応など相談している。	町とは、入所判定会において、入所申込者の生活状況について情報交換を行い、優先度を決定している。毎月のサービス調整会議や2ヵ月毎の運営推進会議で町の関係機関と情報交換や意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○定期的に身体拘束、虐待防止委員会を開催し、日ごろのケアのしかたを確認し、身体拘束になりうる行為や言動について見直し、職員に意識付けをしている。	身体拘束を行わないケアについて家族に説明し、職員にも身体拘束について定期的に委員会を開催し、意識付けをしている。言葉による抑制が聞かれる時は、その場で指導を行い、また委員会の時に事例をあげ職員間で対応を考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	○定期的に身体拘束、虐待防止委員会を開催し、日ごろのケアの中で虐待になり得る行為について話し合いを行っている。資料を作り職員に意識付けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○研修を通して権利擁護について学ぶ機会を持ち、いつでも対応できるように必要な書類を用意し備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○入所前に説明を行い、同意を頂いている。入所後も家族からの相談や苦情を要望を聞き対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○電話や毎月の様子報告の手紙で関わりを続けている。 ○事業所に足を運んだ際は意見や、要望を伺っている。	利用者ごとに職員担当をつけ、家族との関係が途切れないように毎月家族に利用者の様子の写真を添付し報告をしている。相談も随時電話で行い、玄関に、意見箱を設置している。いただいた意見や要望は、申送りで報告し職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○月1回の職員会議の他に日常的に全職員へ声を掛けて意見や提案を聞き出し、反映させている。	利用者の席替え、物品の保管場所、職員の担当配置について提案が出されている。職員が、事業所内設備の清掃やメンテナンスを定期的に行うためのチェック表を作り、活用している。職員の向上心を高めるため、本人と面談を行い半年ごとの目標を立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○代表者は可能な限り自ら現場に足を運び、個々の意見や要望の吸い上げに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○職員のレベルにあった法人内部研修の参加の働きかけを行い、それぞれのレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○町役場、地域包括支援センター主催の会議や研修会へ定期的に参加し、交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○本人が話しやすい環境を整え、時間や場所にも配慮し笑顔で向き合いながら傾聴に努めている。 ○利用初期は特に配慮し、ご本人と周りの利用者様とのコミュニケーションを取りやすい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○ご家族様の心境に配慮しながらこまめに状況を報告している。 ○電話での対応を中心に要望等を聞き出し、気持ちに寄り添っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○相談、面談時に利用者様やご家族様にとって必要と思われるサービスについて提案し同意を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○一緒に出来ることを提案しながら、各利用者様に役割を持って頂くことで、関係を築くよう努めている。 ○担当の職員を中心に、利用者様の希望にできるだけ添えられるよう話し合いを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○月始めに利用者様の状況報告を行い、ご家族と情報の共有化を図っている。その他、必要時は随時電話で相談をしながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○馴染みの人や親族からの電話はご本人と話をさせていただいてる。 ○コロナにより制限のある中での面会をお願いしている。	近隣の方家族、馴染みの商店や床屋が来訪している。家族や親族とのコロナ禍での面会は、電話での事前予約をお願いし、面会時間や、人数などの制限とワクチン接種証明書の確認等を行っている。一時帰宅は家族が対応し、理美容などは事業所で対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○個人の性格や人間性を理解したうえで、利用者様同士コミュニケーションが取りやすいように、職員が間に入り会話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○サービス終了後も相談しやすい環境をつくり、ご家族の相談に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○普段のコミュニケーションから情報収集を行い、意向などに耳を傾け把握できるように努めている。	日頃の会話から伺うことができるが、できるだけ個別に時間を作って話を聞くようにしている。要望があった場合は家族に相談し対応している。把握した思いや意向は、申し送りで共有し、会議時に議題にし、事業所として出来ることを考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○入所前の面談や入所後の面会の際、ご家族に生活歴などを伺い把握している。必要時はその他の関係機関から随時情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○利用者様と関わる機会を出来るだけ増やし、一人一人に合った生活リズムや変化を申し送りで報告し、送りノートに記録し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○定期的にモニタリングを行い、利用者様やご家族より意見や要望を頂き、介護計画に反映させている。	その人の日常生活を観察し、その人にとって必要な支援を介護計画に取り入れている。残存機能維持のため、出来ることはその人にして貰い、日常の生活動作の低下により難しくなってきたところは随時、職員間で対応を工夫しながら取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○職員が日頃の関わりの中で気づいたことなどを申し送りノートに記入し共有している。計画の見直しは職員会議の場で職員の意見を聞き検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○関わる時間を作ることで、利用者様の意向に耳を傾け一人一人がその人らしく生活できる環境を提供出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○コロナ禍の中でも、感染予防対策を行い可能な範囲で地域資源を活用し、生活をサポートしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○利用者様やご家族の希望を伺いながら、馴染みのかかりつけ医に定期的に通えるように支援している。	協力医療機関の西会津診療所から毎週訪問看護サービスを受け、意見を貰いながら連携をとっている。受診は家族対応となっているが、難しい場合は事業所に対応している。受診結果の共有は、随時家族にその都度電話でご報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○週に1度、ホームに来る訪問看護の看護師に日頃の様子や報告や、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○病院の看護師、ソーシャルワーカー、担当医と密に連絡を取り、情報交換を行い、ご家族様に報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○利用者様やご家族と十分に話し合い、事業所の方針を説明し同意を得ている。また、医療機関とも連携をし、ご家族と情報共有している。	契約時に事業所として対応できること、できないことを説明している。看取りは行っていないが、事前に家族と今後の方針について相談を重ねている。重度化・終末期の時点で、主治医と相談し、受け入れ可能な施設等の紹介を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○事故発生時のマニュアルや職員の連絡網を作り備えている。事故等は定期的に対策の検討を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○月に1度季節や状況に合わせた避難訓練を行い、利用者様にも参加して頂いている。	コロナ前は地域の方や運営推進委員の方に訓練に参加して貰い、自治区での訓練時は会場が事業所となり、一緒に訓練している。消防署立ち合いの訓練後に、避難誘導時の注意点や消火器の使い方についての助言を貰っている。年間の訓練日程を計画し、それに合わせた勤務シフトを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○利用者様一人ひとりの尊厳を、尊重した対応を職員全員で行えるように意識しながら業務に取り組んでいる	排泄や入浴時の声掛けは周りにも配慮し、利用者の立場に立ち、人生の先輩として敬う気持ちを意識して関わっている。親しいこととなれ合いは違うことを理解し、地域柄、職員と利用者が以前からの知り合いの方がいても、利用者という意識付けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○日常のコミュニケーションを多くとり、思いや希望に耳を傾けるよう意識して取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○利用者様が望むことを優先して考え、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○自宅からお気に入りの服を持ってきて頂き、おしゃれを楽しんで頂いている。 ○定期的に地域の理容室がホームに来て散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○利用者様の好みを聞く機会を作り、メニューに反映している	メニューは外部に発注しているが、行事の時は手作りで提供できるよう工夫をしている。食事前には口腔体操を行い、テレビを消し、職員の見守りの中で自分のペースで食べて貰えるようにしている。行事の時は、こづゆなど馴染みの料理などを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○チェック表を用いて食事摂取量、水分摂取量を記録している。個々の能力に応じた食事を提供できるように観察し、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○ご自身で出来る方には声掛けを行い、一人では困難な方は必要なところを介助し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	○記録を取りながら排泄パターンを把握し、声掛けを行い、本人が不快を感じることなく過ごせるように努めている。	自立に向けて、日中のトイレ回数を時系列表に記入し、トイレの間隔があいた場合は声掛け誘導を行、できるだけトイレで排泄して貰えるようにしている。失敗しても、本人尊厳や周りの視線に配慮しながら耳元で声掛けを行い、話題を変え気をそらす工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○水分量のチェックを行い、不足している方には声をかけながら摂取していただいている。また、状況に合わせておやつ等で乳製品の提供も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	○利用者様の要望を伺いながら、時間や対応職員を調整し対応している。	気分が乗らず入浴を嫌がる方には、説明をしながらゆっくりと時間をおいて入浴を誘っている。それぞれの利用者の好みに合わせ入浴剤を使用したり、室温の調整、脱衣かご等の配置を変えている。衣類の着脱時には、利用者に付き添いながらも着脱を直視しないように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○利用者様が安眠しやすい環境を一人ひとりに合わせて提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○受診した場合など、薬の説明書や申し送りで全職員が確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○生活歴なども参考にしながらレクリエーションを提供し、記録することで職員間での共有、把握を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○コロナ禍で対応が困難であっても限られた中で外出支援を行っている。	外の空気や光を浴びることで、開放的になりストレスの軽減や、時間や季節を感じることで本人の安定した生活リズムにつながると理解し、出来るだけ外に出るようにしている。感染対策を行ったうえで花見ドライブやこいのぼりの見学、山菜取りなどに出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○ご家族から現金を預かり金庫に保管している。欲しいものはその金銭で購入している。ご家族には預り金報告書を送っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○いつでも連絡が取れることを日頃から伝えている。要望があればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○季節を感じれる空間づくりを環境委員会を中心に行っている。分かりやすいように装飾品は特に力を入れている。	一人ひとりの居場所や、好みの場所があり、こだわりと好みで自然と座る位置あり、自由に過ごして貰っている。動線上には障害物は置かないようにしている。感染症対策で、職員は出勤前後に体温確認して、手洗いやうがい、マスクの着用、手指消毒を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○和室やソファ、カウンター席があり、その時の気分で好きな場所で過ごして頂けるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	○居室には使い慣れた家具や希望の物を持ち込んで頂き、安心して生活出来る環境を作っている。	利用者の使いやすいようベッドの向きや介助器具を設置している。自分の居室を間違わないよう、入口に表札を貼り、間違ってしまう方には見やすいよう表札を大きくしたり、入口に飾りをつけて目立つようにしている。清掃や衣替えは、主に職員が行い整理・整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○施設内はバリアフリーで、廊下やトイレなどの必要な部分に手すりを設置して安全な環境に努めている。		